

I 観光振興

1 目的
本市が有する歴史資源（美濃路・清洲城・朝日遺跡）を活かした観光振興を図るため、関係者間で目的意識を共有し、今後展開すべき施策について合意形成を図る。

2 会議構成員 (敬称略・順不同)

推進会議委員	山本 武司（清須企業懇話会幹事） 富田 正美（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長） 山田 功（中日信用金庫理事長）
関係者	奥田 雅朗（清須市商工会事務局長） 臼井 鏝造（美濃路まちづくり推進協議会）
清須市	河口 直彦（企画政策課長） 寺井 秀樹（市民環境部次長兼産業課長（市観光協会事務局長）） 栗本 和宜（生涯学習課長）

3 開催日時・会場・議題・協議内容等

	開催日時・会場	「議題」・協議内容等
第1回	平成 27 年 9 月 24 日（木） 13:30～16:00 [清洲庁舎 210 会議室]	「 施策展開の方向性について 」 総合戦略へ位置付けるべき観光施策の立案に先立ち、具体的なターゲットやそのターゲットを見据えた施策展開の方向性について協議
		【 主な意見等 】 ・施策は優先順位をつけて、経営資源で絞り込む順位を明確にしておくべき ・登呂遺跡では無償ボランティアが活躍、清須でも市全体を案内できるガイドが必要 ・文系（歴史、考古学）と理系（自然、地勢）の一体となった情報発信が必要 ・清須はかつて尾張の中心都市であった。朝日遺跡も含めて連綿と続く歴史やその背景となる自然環境、名古屋市との関係性も認識を深める必要がある ・他の遺跡を訪れると、地元ボランティアの対応から熱意と愛着が伝わってくる ・ガイド育成を通じて、地元への関心を高め、生きがいと誇りの醸成につながる
第2回	平成 27 年 10 月 13 日（火） 10:00～12:00 [本庁舎 2 階小会議室]	「 「施策展開の方向性」に沿った具体的施策について 」 第 1 回会議で協議した施策展開の方向性に即して、想定される具体的施策を事務局から幅広く提示し、内容・必要性等について協議
		【 主な意見等 】 ・清洲城は新幹線運転手の目標物の 1 つであるなど、他では真似できない個性がある ・ご朱印を発行して主要ポイントを回って集めるのもおもしろい ・来訪者への誘引はモノではなくコトにして、ばらまきにならないよう留意すべき ・今ないものを作るより、あるものを活かす取り組みが大切 ・朝日遺跡は歴史資源として活用可能性が高い。県で朝日遺跡のテキストを作成するので活用してほしい

・案内板など駅から清洲城までの空間・道のりを歩いて楽しめる要素も重要
・連綿と続く歴史や散在する専門知識を集約発信し、つながりや深さを理解できる
・清須は清須越で名古屋と深くつながっている。清須越四百周年事業の際に作成したような清須越しマップの清須市版があってもよい

平成 27 年 11 月 10 日（火）
13:30～16:00
[清洲庁舎 210 会議室]

「**総合戦略へ位置付ける具体的な施策（案）について**」
第 2 回会議での協議結果を踏まえ、総合戦略へ位置付ける具体的な施策（案）について協議（あわせて数値目標・KPI についても意見交換）

【主な意見等】

・清洲城の活用は、新川高校や周辺自治体からの参加を想定してもよい
・ボランティアは目標がある方がパフォーマンスを発揮してくれる
・ボランティア経験を会員証のラインや星等で視覚化すると、やりがいにつながる
・朝日遺跡サポーターには力を活かせる人材がいるので、是非一緒に取り組みたい
・ボランティアは自分たちのやりたい活動であれば、手弁当でも参加する。やりたいことの後押しが重要
・施策全体で目標値を掲げるのはよいが、個々の事業は何をやるのか明確にしておかないようにする必要がある
・清須の歴史のイメージが、清洲城に凝縮されている。清須全体が信長を筆頭に戦国武将が人生を過ごし飛躍を遂げた舞台として、来訪者がいつ来ても何か新しい体験ができるようになるとう素晴らしい

4 総合戦略への反映
第 3 回会議で協議した具体的な施策（案）をもとに、市内部を中心に必要な調整等を行い、総合戦略骨子案の基本目標 1 「地域資源を生かして活力あるまちをつくる」の構成に反映した。

Ⅱ アクティブシニアの積極的な社会参加と健康づくり

1 目的

事前に実施する市民アンケート等により、目指すべき施策の方向性を整理した上で、シニア世代(55歳以上)の市民の生の声を聴取し、市民の意向を踏まえた施策展開を図る。

2 会議構成員

(敬称略・順不同)

推進会議委員	舟橋 啓臣 (愛知医療学院短期大学学長)
関係者	浅野 雅章 (清須市社会福祉協議会主査)
	酒井 忠次 (清須市シルバー人材センター事務局長)
	水谷 仁昭 (同上係長)
公募市民	6名
市若手職員有志	6名

3 開催日時・会場・検討テーマ・協議内容等

	開催日時・会場	「検討テーマ」・協議内容等
第1回	平成27年11月1日(日) 13:30~16:00 [本庁舎2階小会議室]	「A:きっかけづくり・情報提供」 「B:人材育成・団体育成」 グループワーク方式で意見出しを実施
第2回	平成27年11月22日(日) 13:30~16:00 [本庁舎2階小会議室]	「A:講座によるきっかけづくり」 「B:活動のパワーアップ支援」 「C:健康づくり」 グループワーク方式で意見出しを実施

4 会議の進め方

- 参加者に検討したいテーマを選択してもらう。
- グループワーク方式で「課題」「取り組むべきこと」について話し合い(各グループには、担当のファシリテーターがつき、進行をサポート)
- グループごとに代表者による意見発表
- 良いと思う意見・アイデア等(付箋張り出し)に1人3票ずつ投票
- ファシリテーターによるまとめ

5 各回のテーマ・意見等

(1) 第1回

○ 「A:きっかけづくり・情報提供」

「情報発信力の弱さ」や一人ひとりの状況に応じた情報を届けることが課題であり、「ボランティア団体情報」の提供や、「口コミ」を活用した勧誘等が重要との意見がみられた。また、「参画(加)する気持ち」「参加する意識のない人の掘り起こし」など、参加意識を高めていく方法を考えることが必要との意見もみられた。

○ 「B:人材育成・団体育成」

「全体をまとめるしくみ」をつくり、人材の育成・情報の集約・団体の交流等を図ること、「講座等の卒業生の活動継続」を想定した取組、「市による資格認定」など住民による健康づくりの

推進が重要との意見がみられた。また、「市の施設を気楽に利用できるようにすること」「大学との連携」に関することも重要との意見がみられた。

【意見発表後の投票で複数の得票があった主な意見】

	A:きっかけづくり・情報提供	B:人材育成・団体育成
3票	・情報発信力の弱さ ・100以上あるボランティア団体の情報発信	・全体をまとめるしくみ ・講座等の卒業生の活動継続 ・市による資格認定
2票	・地域社会に参加する気持ちが大切 ・参加する意識のない人の意識喚起 ・参加しやすい環境づくり ・会員募集は口コミ ・口コミ、安心感	・市の施設をもっと気楽に利用できるようにする ・大学との連携の推進

(2) 第2回

○ 「A:講座によるきっかけづくり」

少し手を加えたり組み合わせたりといった工夫、新たな講座の開講、情報発信を充実することなど、様々な提案がなされた。きっかけづくり講座の魅力向上を図るために、地元の特産品を活かした「昼食付き」の提供や、「口コミ+声かけ」での募集などが提案された。

○ 「B:活動のパワーアップ支援」

人材、情報、場所、財政支援、交流連携などについて話し合わせ、地域活動やまちづくりに力を入れることが重要との意見がみられた。また、イベントにおけるアクティブシニア向けの「紹介を行う場」(ステージ)の確保や、中心となるリーダーや・団体・グループの「情報発信力」を向上させる取り組みについても重要との意見がみられた。

○ 「C:健康づくり」

大学連携を深め、地域に情報を出しながら、また、「リーダーを市で認定」し、より多くの人に参加できる環境を作っていくことが提案された。また、きっかけや交流の場となる「定年ごころうさん会議・定年式」の開催、「市の職員と市民がフラットな関係で話し合う機会づくり」について、多くの参加者から重要との意見が出た。

【意見発表後の投票で複数の得票があった主な意見】(数字)は得票数

A:講座によるきっかけづくり	B:活動のパワーアップ支援	C:健康づくり・大学連携
【開講してほしい講座等】 ・老後のための栄養学(1) ・健康体操の地域活動(1) ・清須の地域資源を活かすにはどうしたらよいか。提言、意見交換(1) ・キリンビールで一杯(1) 【講座の魅力向上】 ・昼食付き 料理関係の団体が案内を兼ねて提供(4) ・口コミ+声かけで募集(2)	・コミュニティ活動の4地域別の分社化(3) ・イベントステージのある場所づくり(2) ・まちづくり協議会(2) ・中心となる人、団体、グループの「発信力」(2)	【きっかけや交流の場】 ・定年ごころうさん会議、定年式(10) ・市の職員と市民がフラットな関係で話し合う機会づくり(5) 【健康づくり】 ・市で各地域の「健康づくりリーダー」を認定する(1)

6 総合戦略への反映

第2回会議で協議した検討結果をもとに、市内部を中心に必要な調整等を行い、総合戦略骨子案の基本目標3「高齢者が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」の構成に反映した。

Ⅲ 若者目線からの定住・結婚・子育て支援

1 目的

事前に実施する市民アンケート等により、目指すべき施策の方向性を整理した上で、若者世代（18歳～39歳）の市民の生の声を聴取し、市民の意向を踏まえた施策展開を図る。

2 会議構成員

（敬称略・順不同）

推進会議委員	北山 ゆり（愛知県立新川高等学校校長） 平野 邦弘（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）
公募市民	4名
市若手職員有志	7名

3 開催日時・会場・検討テーマ・協議内容等

	開催日時・会場	「検討テーマ」・協議内容等
第1回	平成27年11月1日（日） 9:30～12:00 [本庁舎2階小会議室]	「A：結婚支援」 「B：子育て支援」 グループワーク方式で意見出しを実施
第2回	平成27年11月22日（日） 9:30～12:00 [本庁舎2階小会議室]	「若者の定住促進に向けたまちの魅力づくり」 「A：しごと・生活基盤」 「B：商業・娯楽施設」 グループワーク方式で意見出しを実施

4 会議の進め方

「Ⅱ アクティブシニアの積極的な社会参加と健康づくり」と同じ。

5 各回のテーマ・意見等

(1) 第1回

○ 「A：結婚支援」

「結婚支援課（仮称）」など担当組織・者の設置、「継続的な出会い、趣味で交流できる」「一緒に体験できるイベント」など出会いの機会づくり、「婚活、恋愛教育」などライフプランを考える機会づくりが重要との意見がみられた。

○ 「B：子育て支援」

「子どもの教育費」など経済的な負担の軽減、「就業規則の充実、育児休業、育児勤務」など仕事と子育ての両立支援、「保育士の増員」など保育の質の充実、「保護者の孤立」「子育て支援センター」など仲間づくりや集いの場の充実が重要との意見がみられた。

【意見発表後の投票で複数の得票があった主な意見】

	A：結婚支援	B：子育て支援
4票	・結婚支援課（仮称）の設置 ・趣味で交流できる機会づくり（継続的な出会いの場の創出）	・子どもの教育費の負担軽減が必要 ・就業規則の充実、育児休業や育児勤務の体制整備 ・保育士の増員
2票	・一緒に体験できるイベント ・婚活、恋愛教育が必要	・身内が近くにおらず、頼ることができない。孤立しがち。（育児の心理的負担） ・子育て支援センターは土日休みで、不便。利用者は働いている女性が多い。

(2) 第2回会議

○ 「A：しごと・生活基盤」

名古屋駅や夜間の運行など「あしがるバス」の利便性の向上を多くの参加者から指摘があった。また、「公園」「下水道」等の整備、地域の力を活かした「子どもの教育」、「災害対策の推進やそのPR」なども重要との意見がみられた。

○ 「B：商業・娯楽機能」

全国的に知名度の高い地域資源の活用のほか、名古屋市に近い利点を活かしつつ差別化を図るため、カフェ、ケーキ屋など小さくても若者目線で魅力あるスポットの発掘・誘致・情報発信や市独自の電子マネーが重要との意見がみられた。

【意見発表後の投票で複数の得票があった主な意見】

「若者の定住促進に向けたまちの魅力づくり」		
	A：しごと・生活基盤	B：商業・娯楽施設
5票	・あしがるバスの利便性向上 ・あしがるバスの名古屋駅乗り入れ検討	—
3票	—	・有名漫画家のミュージアム ・ケーキ屋、カフェなどのマップ作り（情報発信）
2票	・自然豊かで遊具が整っている公園の整備（芝生化等） ・下水道の整備 ・大学生等に放課後や土曜日に小中学生の勉強を見てもらう ・市が災害に強いまちづくりの推進、市の安全性のPR	・名古屋に近いという利点を活かす市独自の電子マネー。ポイント付与、商品との交換 ・美濃路全体ではなく、局所的にカフェ、ケーキ屋、パン屋等を誘致 ・キリンビールとの共催によるビアガーデン

6 総合戦略への反映

全2回の会議で協議した検討結果をもとに、市内部を中心に必要な調整等を行い、総合戦略骨子案の基本目標2「若い世代が子育てしやすいまちをつくる」の構成に反映した。